

令和5年度 兵庫県立おこがわ特別支援学校 学校評価 自己評価結果

学校経営の重点	①	幼児児童生徒が安全安心に学び生活できる環境づくり
	②	幼児児童生徒、一人ひとりの人権と一人ひとりの未来を尊重する
	③	一人ひとりをつなぎ、学級間をつなぎ教職員ワンチームとしての
	④	ICTを活用した主体的に学ぶ授業づくりと学校と家庭間の連携
	⑤	地域資源を活用した体験活動を主とした地域とともに育つ学校
	⑥	専門能力スタッフ等との連携による組織としての校内・地域支援

自己評価の評価基準

A	よくできた。十分達成している。	目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される。
B	できた。おおむね達成している。	目標に対して共通理解をもち、具体的な方策の実行に着手しつつある。
C	あまりできなかった。あまり達成されていない。	目標に対する方向性はあるが、共通理解が十分でなく、全体的に停滞している。
D	できなかった。ほとんど達成されていない。	現状に満足して、問題意識がない。問題意識はあっても手つかずの状態である。

学部分掌	実践目標	学校経営の重点	具体的な取り組み	評価指標	取り組み状況	R5年度(%) ※0%は非表示
学校運営	開かれた学校づくり	③⑤	学校の情報を家庭や地域社会に積極的に発信し、開かれた学校づくりをすすめる。	保護者、関係機関、地域社会への本校の取組等を発信し、それに関する意見等を活かすことができたか。	ホームページのブログを中心に各学部等の取り組みの発信を行った。	
	働きがいのある職場づくり	①③	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、アンケート等により、課題を明確にし、取り組む。	教職員アンケートの実施。課題の改善に取り組めたか。	アンケートを実施し、28件の回答があった。アンケート結果については周知した。	
総務管理	子どもたちの安全な教育環境の整備	①②	月1回の安全点検を行うとともに教員の安全に対する意識を高める。	点検結果に対する対応の状況、教員の安全に対する意識を高める取組ができたか。	点検後、速やかに必要な措置を取っている。全体に周知すべきことがあればグループウェアに投稿して知らせている。	
	学校とPTAとの連携・協力のより一層の推進	②④⑤	学校とPTA本部が連携・協力し教育環境の整備や研修等を行う。	教育環境の整備や研修について具体的にどんな取組ができたか。	9月14日に校長先生を講師に進路に関する研修会を実施した。	
	広報活動の充実	①②④	学校やPTAの活動について情報発信を積極的に行う。	学校だよりやPTAだよりの発行回数増や内容のより一層の充実に取り組めたか。	PTAだよりは新校舎建設に関する県教委とのやり取りや保護者アンケート集計結果を掲載する等タイムリーな話題を提供した。	
教務情報	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	②⑤⑥	授業の始まりと終わりは、必ず挨拶をして意識できるようにする。導入展開、そして振り返りの時間を設定する。授業の見通しを持ち、学ぶことに興味関心を持てる工夫。児童生徒同士や教師と対話できるしかけ作りをする。また、教師が、児童生徒が「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」を日々、言語化できる。	・児童生徒が単元を通じて見通しを持って主体的に取り組む様子が増えたか。 ・児童生徒が授業で学んだことを学校生活場面で発揮できたかどうか。	各クラスその日のお当番が全体の前に出て挨拶がしっかりできている。導入部分では、簡易のホワイトボードやタブレットを使用して、見通しが持てるように取り組んでいる。児童生徒が「やってみたい(学びたい)」と思わせる教材やしかけ作りができてきている。	
	ICTを活用した効果的な授業及び指導	④⑤	あらゆる場面で積極的にICTを活用する。また、児童生徒の実態や特性を把握、理解し、好みや得意分野を活かして効果的な授業や指導への工夫を図る。	・日々の授業や学校生活の中で電子黒板やiPad等を利用したかどうか。児童生徒自ら利用したかどうか。 ・ICTを活用した学びが生活場面で発揮できたかどうか。	タブレットから電子黒板を通して、その日の授業の予定を提示し、見通しが持てるようにできている。既存の動画やオリジナルの動画を作成し、児童生徒を惹きつけるような活動ができてきている。	
生徒指導	通学を含め学校生活を安全かつ円滑に進めるために、必要な業務内容を明確にする。高等部設置に向けての業務を行う。	⑤⑥	SBの運行会社と協力してバス担当の業務内容を整備する。	各バス担当の役割分担など業務内容を整備することができたか。	バスの路線の増加についての提案や介助員との情報交換会の設定などを行った。	
		⑤⑥	生活指導課の仕事内容を明確にし、整理する。(高等部設立時の仕事内容を含む)	生活指導課の仕事内容を整理できたか。(高等部に向けての仕事内容を含む)	生活のきまりの見直しや生徒会活動の設立、携帯電話届出制の作成、生徒証の作成などを行った。	
進路指導	児童生徒、保護者の進路選択に関する情報の収集、発信、および有益となる機会の提供。	①③⑥	進路に関する情報収集を行い、「進路だより」などで情報を発信する。	「進路だより」の発行など、進路に関する情報の発信ができたか。	進路だよりの発行、能力開発センターのオープンキャンパス、兵庫県下の企業説明会など、随時情報発信を行った。	
		②⑤⑥	福祉事業所見学会などを行い、児童生徒と保護者が将来の進路選択に有益となる機会を提供する。	福祉事業所見学会など、児童生徒と保護者が将来の進路選択に向けて有益となる機会が提供できたか。	今年度から、保護者が見学先を選択する、という新しい形で実施した。年3回、2か所ずつ見学可能とした。機会提供という点で、充実した形で行うことができた。	

自立支援	校内の支援体制を整え、日頃の情報共有と連携を充実させる。	①⑥	支援部員と担任は、児童生徒の状況を共有し、より良い支援ができるように実態把握し、関係機関につなぐ。情報共有シートや支援会議、カウンセリング事業も活用していく。	担任は、クラス・学年・学部で支援の必要な子どもの情報共有をし、支援の方法を検討する。必要に応じて校務部会やカウンセリング対象に上げて支援の方法を検討できたか。	日頃からクラス・学年・学部で情報をあげてもらい、部会で情報共有後、関係機関に繋ぐようにした。デイサービスとの情報共有シートを使い、事業所と担任との連携を取ることができたケースもあった。	
	地域のニーズに応じて特別支援学校のセンター的機能を支援に繋げる。	⑥	地域近隣校への巡回相談・教育相談、研修等を通して特別支援教育の専門性を生かしていく。	相談内容を通じて実態把握を詳細に行い、相手のニーズに応じて丁寧な対応ができたか。	学校見学会を開催し、本校について理解を促した。必要に応じて教育相談を実施した。市内の特別支援学級担任に向けて自立活動や支援の手立てについて研修を行った。	
	自立活動の指導が円滑に行えるように校内の体制を整える。	①⑥	客観的な発達検査を参考に児童生徒の実態把握や課題設定を行う。実態や課題に合わせた支援ができるように外部講師を活用したり、教材の工夫を行ったりする。	児童生徒の実態把握や課題設定を担任間で共有できたか。外部講師の助言や教材の工夫が生かされ、実態や課題に合わせた支援ができたか。	今年度から客観的な発達検査を導入し、実態把握の参考にした。作業療法士の訪問により、的確な助言を得た。教材展を行ったとともに、布教材やエジソン箸などの教材を相談室に用意した。引き続き教材、教具の整備は必要である。	
保健安全	(保健) 児童生徒の健康の保持増進と感染症予防のための環境整備	①④⑤	・安全に定期健康診断を実施し、より正確な結果をもとに、保護者や医療機関との連携を図る。 ・健康診断に向けた事前学習を行う。 ・登校前の健康観察の徹底と手洗い・うがい等の保健指導を行う。	・児童生徒に応じた検診方法を把握し、学校医と連携を取りながら検診を実施できたか。 ・毎日の健康観察チェックによる感染状況の把握ができたか ・登校前の健康観察の実施と確認ができたか。	・検診の事前指導の資料を作成し、検診の方法や校医の紹介を写真を用いる等校医と連携し検診がスムーズに行えるよう工夫した。 ・個別に合った検査方法や検査器具を使用することで正確で安全に実施できるようにした。 ・毎日の健康観察カードの提出により欠席状況や感染症の把握をし、担任との連携により早期に対応し感染の拡大予防に努めた。	
	(防災) 防災教育を通じて、身を守るために必要な防災意識を養う。	⑤⑥	・年間を通して計画的に防災教育を行い、命を守るための避難行動が取れるようにする。 ・学部・学年に合わせた事前学習を行う。 ・危機管理マニュアルを配付し、職員に周知をはかる。	・児童生徒が災害場面に応じた避難行動が取れているか。 ・職員がマニュアルに沿って、各自の役割に応じた行動ができたか。	・地震、火災時の初期避難行動をとることができた。 ・マニュアルとして「危機管理マニュアル」を10月に配付した。マニュアルに沿って1月に避難訓練を行い、各自の役割を理解するような訓練内容を実施した。	
	(食育) 安全安心な給食提供と食育の推進	④⑤	・食に関する指導の全体計画を作成し、担任と栄養教諭、養護教諭が連携して指導する。 ・衛生管理を徹底し、児童生徒の実態をふまえた献立を作成する。	・食に関する指導の全体計画の作成および教員同士の連携体制が構築されているか。 ・児童生徒の給食喫食状況はどうか。	・児童生徒の食生活動作の発達等に関するチェックを行った上で食に関する指導の全体計画を作成し、年間指導計画に基づき食育を実施した。 ・昨年度作成した衛生管理マニュアルに基づき衛生管理を行った。また、学校給食摂取基準を作成し、児童生徒の喫食状況(残食調査で把握)と基準をふまえた献立作成を行った。	
小学部	① 児童の基本的な生活習慣を確立するため、保護者や関係機関と連携し、適切な目標設定に基づいた指導や支援ができる。	①②④	①挨拶や身の回りのことが自分でできるようにするため、チェックリストを基に、実態把握をした上で、個に応じた適切な目標設定をする。 ②保護者や関係機関と連携を図り情報を共有し、協力して指導や支援をする。	①チェックリストを基に、実態把握をし、適切な目標を設定でき、達成に導けたか。 ②日々の連絡帳、個人懇談、支援会議などで、保護者や関係機関と情報共有し、目標や支援、指導について確認ができたか。	各クラスで、それぞれの児童の実態把握をし、目標について話し合い、達成に導くことができた。チェックリストはあまり見なかったという声が多かったため、年度初めだけでなく、何度か活用を呼びかける必要があった。 保護者や関係機関とも連携でき、指導についても確認できた。	
	② 児童がわかって動け、活動量の多い授業づくりをする	②③④	①授業の始まりと終わりがはっきりわかるよう、児童の代表が前に出るとともに、全員が姿勢を正してあいさつを行えるよう支援する。 ②授業の始めに実態に合った授業の流れを提示する。(文字を読むのが難しい児童には写真やイラストで) ③各授業で、主指導が立つ位置や導線を固定する。 ④その授業の目標を明確にし、達成するための手立てを考え、児童の待ち時間がなるべく少なくなるような構成にする。 ⑤導入、展開、まとめを意識して授業を作る。	①個々の正しい姿勢を確認しながらあいさつを促せたか。 ②実態に合った授業の流れを提示できたか ③毎授業、立つ位置や導線を固定できたか。 ④目標や手立てを示し、児童の待ち時間を全体の3分の1以下にできたか。 ⑤指導略案に導入、展開、まとめを盛り込み、授業ができたか。	①授業の始めと終わりに姿勢を正したり、発声を促したりすることに、取り組むことができた。 ②全員の実態に合わせることは難しかったが、授業の流れを提示することは意識できた。以前より視覚支援が増えた。 ③主指導者が立つ位置は意識できたが、児童の同線はわかりにくいこともあった。 ④教師の人数が少なく、待ち時間がどうしても長くなってしまった。 ⑤略案には導入、展開、まとめと盛り込むことはできたが、まとめは時間が足らず、できないこともあった。	
	生徒の基本的な社会生活習慣を確立するため、保護者や関係機関と連携し、適切な目標設定に基づいた指導や支援を行うことができる。	①②④⑥	ひとりひとりに応じた係・当番等の活動を設定し、役割を意識して取り組めるよう指導や支援をする。 保護者や関係機関と連携を図り、情報を共有して、より効果的な指導や支援につなげる。	できるだけ自分から取り組めるよう、個に応じて適切に目標を設定して、必要に応じた指導や支援ができたか。 連絡帳、個人懇談、支援会議等、保護者や関係機関と情報共有を行い、適切な指導や支援につなげることができたか。	生徒個々について設定した課題や目標をクラスや学年のスタッフで共有し、係・当番等の活動について必要に応じた指導・支援を行うことができた。 支援上の重要事項について保護者や関係機関との情報共有を行うとともに学年・学部で共有することで複数で課題に対応し、適切な指導や支援につなげることができた。	